人吉東九日町商店街・人吉西九日町商店街（熊本県人吉市）

１．取り組みの概要

人吉東九日町商店街・人吉西九日町商店街では、商店街内の空き店舗を利用して、子育て支援スペース「九ちゃんクラブ『ふれあい広場』」を開設し、子育て中の保護者とその子どものための交流の場をもうけている。 さらに、商店街の中には「子育て応援店」として、商店主の協力により子育て中の保護者を対象に様々なサービスを展開している。

２．商店街概要

商店街名	人吉東九日町商店街振興組合、人吉西九日町商店街振興組合
所在地	熊本県人吉市南泉田町３－３（人吉商工会議所内）
組合員（会員）数	39 店舗
URL	－

商店街の様子

３．取り組みに至る経緯・背景

人吉東九日町商店街・西九日町商店街は、JR 肥薩線人吉駅より徒歩 10 分に位置し、重要文化財や神社・仏閣、城下町の古い町並みも残る地域にある。

人吉市では、子育てサークル「てくてくサークル」が人吉市保健センター及び保育所に併設された人吉市地域子育て支援センターを拠点として活動を行っていた。しかし、同センターは、保健センターや保育所との併設の拠点施設であるために、自由に集まれる場所として制約があった。

一方、平成 17 年に人吉商工会議所を通じて、熊本県商工観光労働部補助金「地域との連携による商店街魅力創造事業」を利用してはどうかとの誘いが商店街にあり、商店街と子

育てサークル及び人吉商工会議所、人吉市の連携により、商店街の空き店舗を利用した子育て支援拠点の整備に取り組むこととなった。平成 17 年 5 月に、人吉東九日町商店街と人吉西九日町商店街を中心に「ふれあい街づくり」事業実行委員会が発足した。

取り組みにあたっては、活動拠点となる商店街に面した空店舗を探したが、十分な広さのある空店舗が見つからず、商店街内に立地するスーパーの 3 階が空いていたことから、この 3 階を利用し、平成 17 年 5 月より「九ちゃんクラブ『ふれあい広場』」として開放し、熊本県の補助金を利用してマットや落書き版の設置等の環境整備を始めた。

なお「九ちゃんクラブ」とは、九日町という町名からつけた名前であり、子育て支援センターのほか、市内で保育ママの活動を行っていた保育サポーター「陽だまりの会」が参画し、ふれあい広場の運営を行っている。このスーパーの 3 階では、ふれあい広場のほか、チャレンジショップ事業もあわせて実施している。

平成 18 年 4 月からは、人吉市のつどいの広場事業として、「陽だまりの会」に市から運営を委託して事業を実施しており、「ふれあい街づくり」事業実行委員会を「九ちゃんクラブ『ふれあい広場』」実行委員会に名称を変えて、引き続き運営のサポートを行っている。

なお、これまではスーパーの 3 階に拠点があり、またエレベーターがなく、エスカレーターも止まっている状態であったため、ベビーカーを利用する子育てのお母さんには不便であった。また、車で訪れる利用者がほとんどで、スーパーの駐車場に車をとめてふれあい広場を利用するため、商店街を通ることなく、商店街との一体感を見出せなかった。そこで、商店街の中で適度な広さを有し、商店街にもガラス貼りで面したスポーツジムが空店舗となったことから、平成 22 年 8 月からはスーパーの 3 階からこの空店舗に「ふれあい広場」を移転して活動を行っている。道路を挟んで向いにある診療所と、近くのスポーツ店が、ふれあい広場利用者のために駐車場を提供している。

４．取り組み内容

(1) 九ちゃんクラブ「ふれあい広場」

九ちゃんクラブ「ふれあい広場」は、毎週月曜日、火曜日、木曜日、金曜日の 10:00～16:00 の時間帯で開放しており、会員登録することで利用可能となる。概ね 3 歳未満の児童とその保護者が対象となる。親子での参加が基本であるが、子どもをふれあい広場に預けて、その間に商店街で買物することは可能である。

日常的な運営は、保育サポーター「陽だまりの会」の 5 人のメンバーが交替で行っている。「ふれあい広場」では、紙芝居や絵本読み聞かせ、保健相談、児童相談などのイベントを計画して行っている。

人吉市には転勤族が多く、これまでは「陽だまりの会」のメンバーが各自の家でこれらの転勤族の中の子育て世帯の子どもを預かる事業を 21 世紀職業財団の補助により行っていた。「ふれあい広場」ができたことで、陽だまりの会の活動拠点も「ふれあい広場」となり、これまで陽だまりの会を利用していた転勤族の子育て世帯が商店街に足を運ぶ機会にもつ

ながっている。

なお、「ふれあい広場」については、保健センターで周知するとともに、市でも出生届が提出された際に案内をしている。利用登録者の多くはインターネットで「ふれあい広場」の存在を知り、登録している。転勤族だけではなく、夏休みなどの里帰りの際に一時的に利用する人も多い。

平成 21 年度は計 138 名の登録があり、平均して 1 日あたり 10 組ほどの親子が利用している。

ふれあい広場の様子

(2) 子育て応援店

「ふれあい広場」の開放とあわせて、商店街の既存店も「子育て応援店」として子育てに協力している。子育て応援店は、九ちゃんクラブのステッカーが目印となっており、これら店舗では商店主の協力により、子ども連れでも安心して買物が出来るように、ミルク用のお湯の提供、お店の中でのおむつ交換スペースの設置、子どもと一緒に入れるトイレの設置、子ども向けのサービス、子ども向けメニュー等を行っている。

子育て応援店のステッカー

(3) 商店街と九ちゃんクラブとの連携

商店街振興組合にも、九ちゃんクラブの担当を 2 名配置して連携した取り組みを行っている。交流イベントとしては、商店街振興組合と九ちゃんクラブの協同で、「ふれあい広場」の利用者を対象に「商店街ウォッチング」として、地元商店街を歩いて紹介してまわるイベントを開催している。

その他、「ふれあい広場」で開催するイベント等の毎月の予定表は商店街にも回覧しており、イベント自体に商店が協力して開催することもある。例えば、商店街の中のお茶の販売をしている店舗が「子育てに役立つお茶の話」を講義することなどがあった。

さらに、九ちゃんクラブでは、「ふれあい広場」の利用登録者を対象にアンケート調査を実施しており、「ふれあい広場」に対する意見に加え、商店街の利用状況や商店街に対しての要望についても調査を行っている。

ふれあい広場予定表

平成22年 9月 「九ちゃんクラブ『ふれあい広場』」予定表

日	月	火	水	木	金	土
			1	2 ＊紙芝居地 ☆児童相談	3	4
5	6 ＊絵本読み聞かせ ☆女性相談	7 「暮らしに役立ち隊」がやってくる	8	9 ＊紙芝居地 ☆児童相談	10	11
12	13 ＊親子体操 ☆女性相談	14	15	16 ＊紙芝居地 ☆保健相談 ☆児童相談	17	18
19	20 敬老の日	21	22	23 秋分の日	24 子育てフリートーク	25
26	27 ☆女性相談	28	29	30 ＊紙芝居地 ☆児童相談		

〈ま川さんぽ市 毎月第三日曜日 9時～14時

九ちゃんクラブ専用電話番号

080－6416－9124

《 九ちゃんクラブふれあい広場は、人吉市が人吉・球磨保育サポーター「陽だまりの会」に運営を委託している子育て中の保護者とその子どもさんのための「つどいの広場」です。 》

〔場所〕 人吉市九日町１６－１F

〔利用日と時間〕
月曜日・火曜日・木曜日・金曜日（祝祭日を除く）の午前10時～午後4時
（「つどいの広場」開設日として、「陽だまりの会」保育サポーターが詰めています。 ご都合のいい時間にご利用ください）

☆ 九ちゃんクラブをご利用の際は、事前に会員登録が必要です。

【行事のご案内】

＊ 9月7日(火) 午前11時～「暮らしに役立ち隊がやってくる！」
地元商店街から、面白くてためになるお話を 届けてくださいます。

＊ 9月20日(月)敬老の日，23日(木) 秋分の日のため広場はお休みです。

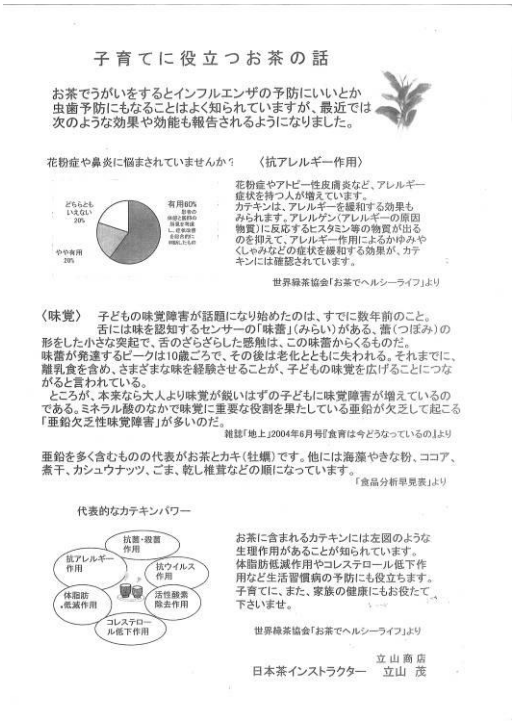
＊ 9月24日（金）午前11時～１１時４５分
「子育てフリートーク 歯と食事のお話」保健センターより
申込書の提出をお願いします。

＊ 10月1日(金)「新広場オープニングイベント」詳細は後日お知らせします

広場や行事についてのおたずねは、サポータまでお気軽にお声掛けください。

ご注意ください！ ＊8月からはイスミさんの駐車場は利用できません。今までご利用の駐車券は回収し、変更済みの券をお渡ししています。詳しくはお問い合わせください。

商店主による講義資料



子育てに役立つお茶の話

お茶でうがいをするとインフルエンザの予防にいいとか虫歯予防にもなることはよく知られていますが、最近では次のような効果や効能も報告されるようになりました。

花粉症や鼻炎に悩まされていませんか？

〈抗アレルギー作用〉

どちらともいえない 20%
有用60%
やや有用 20%

花粉症やアトピー性皮膚炎など、アレルギー症状を持つ人が増えています。
カテキンは、アレルギーを緩和する効果もみられます。アレルゲン（アレルギーの原因物質）に反応するヒスタミン等の物質が出るのを抑えて、アレルギー作用によるかゆみやくしゃみなどの症状を緩和する効果が、カテキンには確認されています。

世界緑茶協会「お茶でヘルシーライフ」より

〈味覚〉 子どもの味覚障害が話題になり始めたのは、すでに数年前のこと。
舌には味を認知するセンサーの「味蕾」（みらい）がある、蕾（つぼみ）の形をした小さな突起で、舌のざらざらした感触は、この味蕾からくるものだ。
味蕾が発達するピークは10歳ごろで、その後は老化とともに失われる。それまでに、離乳食を含め、さまざまな味を経験させることが、子どもの味覚を広げることにつながると言われている。
ところが、本来なら大人より味覚が鋭いはずの子どもに味覚障害が増えているのである。ミネラル酸のなかで味覚に重要な役割を果たしている亜鉛が欠乏して起こる「亜鉛欠乏性味覚障害」が多いのだ。

雑誌「地上」2004年6月号『食育は今どうなっているの』より

亜鉛を多く含むものの代表がお茶とカキ（牡蠣）です。他には海藻やきな粉、ココア、煮干、カシュウナッツ、ごま、乾し椎茸などの順になっています。

「食品分析早見表」より

代表的なカテキンパワー

抗菌・殺菌作用
抗アレルギー作用
抗ウイルス作用
体脂肪低減作用
活性酸素除去作用
コレステロール低下作用

お茶に含まれるカテキンには左図のような生理作用があることが知られています。
体脂肪低減作用やコレステロール低下作用など生活習慣病の予防にも役立ちます。
子育てに、また、家族の健康にもお役たて下さいませ。

世界緑茶協会「お茶でヘルシーライフ」より

立山商店
日本茶インストラクター 立山 茂

５．取り組みによる成果

(1) 成果

「ふれあい広場」を商店街に設置したことで、これまで商店街に足を運ぶことのなかった転勤族の人に、商店街を知ってもらうきっかけになっている。また、アンケート結果からも、徐々にではあるが、「ふれあい広場」利用者が商店街で買物や食事をする機会も増えてきている。

商店街と連携した子育て支援ということで、視察等も増えてきていることから、利用者であるお母さん方の商店街への関心も高まり、様々な要望を伝えるようになってきている。

また、利用者の多くが転勤族であるため、地域にずっと滞在するわけではなく他地域に転勤していってしまうが、離れてしまっても九ちゃんクラブの応援団として、関わりがつながっていくこともある。

⑵ 成功のポイントや工夫

このような成果をもたらしたポイントや取り組み上の工夫として、以下の点をあげることができる。

- 県の補助金を活用し、取り組みの機会を捉えて活動を行ったこと。
- 商店街だけではなく、保育サークルを初め、市、商工会議所、子育て中の母親等、多様な主体間の連携体制がとられ、商店街と子育て世帯のニーズに応じた取り組みがはじめられたこと。
- 商店主から「子育て応援店」などの事業の理解が得られたこと。
- 月１回実行委員会で話し合いの場を設け、新たな取組アイデアなどについて意見交換を行っていること。

６．課題と今後の展望

⑴ ふれあい広場移設による新たな活動の展開

これまでは、「ふれあい広場」がスーパーの３階にあったことから、なかなか商店街との一体感が出せずにいたが、今後は、空き店舗の 1 階のガラス貼りで外からも中が見えるような場所に移動したことで、様々な交流の可能性があるといえる。例えば多世代交流という点で、これまでの 3 階の階段をのぼってしかいけない場所では、敬老会との交流は難しかったが、今後は可能になるといえる。

また、場所が広くなったことで、利用登録者であるお母さん方から、サロンスペースでフリーマーケットを行いたいとの要望や、また小学生以上の子どもも集まれるような場所が欲しいとの要望も出てきている。

さらに、商店街ウォッチングや商店街でのイベント・祭りを通じて利用者との連携を図っているものの、商店主と利用者であるお母さん方との直接、話をするような交流はまだできているとはいえない。今後、直接的な交流につなげることで、より商店街の利用も増え、商店街の活性化につながっていくと考えられる。

⑵ ふれあい広場の機能の充実

現在は、子育て支援に主軸をおいて活動を行っているが、そもそも商店街の利用者は高齢者が大半であり、中学生・高校生等の若い世代は商店街に利用するような店舗もないために素通りするだけになっている。かつては市民会館などもあったが、今は郊外に移転している。商店街では商店街の求心力を高めるためにも、「ふれあい広場」に市の出先機関としての機能を持たせるなど、活用していきたいと考えている。

⑶ 商店街の課題の改善

子育て応援店については、多くの商店主の協力が得られているものの、商店によって温

度差があるという課題もある。また、子育て応援店として取り組んでいるものの、そもそも子育て世帯が買物に来るような店舗、業種でなかったり、また商店自体の通路が狭くてベビーカーを押して通るのは難しかったりするために、協力店舗を拡大できないという問題もある。また、商店街自体も店主が高齢化しているために、なかなか積極的な活動に至らないことも多い。

さらに、自家用車利用での買い物客が大半の中で、郊外大型店に比べると駐車場所が少ないことも商店街への来街を阻んでいる。空店舗が空地となり、コインパーキングにかわる土地も増えてきているものの有料であり、郊外大型店に比べると利便性は良くなく、銀行が土日に商店街利用者向けに駐車場を開放することも行われている。